

日本精鋇

上海に販社設立へ

来夏めど日系の需要捕捉

三酸化アンチモンの国内最大手である日本精鋇は、上海市内に全額出資による販売子会社を設立する。201

2年度内に申請する予定で、早ければ13年夏ごろまでに行政当局の許可を得て立ち上げた。現地に進出

している日系の需要家にアンチモン製品と金属粉を販売する。三酸化アンチモンは樹脂の難燃助剤とし

て、自動車や家電、化学分野など幅広い産業で使われている。しかし円高や電力代の上昇、国内景気の長期低

迷などの要因で、三酸化アンチモンを使う需要家の海外移転が加速している。

子会社の日本アトマイス加工(千葉県)で製造・販売する電子部品用の金属微粉や、自動車分野で使う粉末冶金用金属粉などの需要家の海外進出も続く。

将来も日本の内需の伸びが期待できないことから、同社は13年度からスタートする次期中

期経営計画で、海外市場の強化を盛り込む考え。

その一環で海外進出している日系企業の要望が強く、市場も大き

日本精鋇は2012年度下期、3600トンのアンチモン製品販売量を計画している。上

な中国の上海市内に販売会社を設立することで、内需の減少傾向を補いながら全体の販売数量を伸ばしていく。

下期販売11%増計画
アンチモン、海外で拡販

期実績の3237トンを11%増加を見込む。景気停滞が長期化している内需は横ばいから

品は中瀬製錬所(兵庫県)で生産したものと、中国の委託先で製造したOEM製品の両方を販売する。

微減とみているが、海外市場の拡販で計画達成を目指す。中瀬製錬所に触媒グレードの設備を増設したことも、販売増に寄与する見通

上期は自動車向けの

需要がエコカー補助金の効果があり好調だった。しかし電気・電子分野はスマートフォン関係を除けば低迷が続いた。また化学分野の需要家が自動車や家電といった最終需要家ま

で含め、円高などの影響で海外進出している影響も受けた。